

こんな症状の時には泌尿器科を受診しましょう

(1) 血尿

尿に血液（赤血球）が混じった状態が血尿です。

一つは尿の色が目で見ても赤くなる状態で、これを肉眼的血尿といいます。二つ目は、色の変化は分からないが、健康診断や人間ドックの検査などで潜血反応が陽性と指摘された場合です。この状態は顕微鏡で見ると血液が混じっていることが発見されるので顕微鏡的血尿といいます。

血尿の原因には腎臓や尿路のがん、前立腺のがん、尿路の結石、尿路の感染症、腎炎などの内科的な腎臓の病気など色々なものがあります。放置すると致命的な病気は腎臓や尿路のがん、前立腺のがんなどです。尿路のがんの初期には血尿以外にほとんど症状はありません。特に肉眼的血尿の時にはできるだけ早く受診してください。前立腺のがんでは尿の勢いが弱いことや夜間頻尿などの症状を、尿路の結石では背部、側腹部、下腹部などの痛みを、尿路の感染症では排尿通、発熱、腰背部の痛みを伴うことがあります。また、健康診断や人間ドックで指摘される尿潜血や顕微鏡的血尿の場合では精密検査をしても重大な病気が発見されることは少ないのですが、一度は受診が必要です。

(2) 尿の勢いが弱い、回数が多い

50歳を過ぎる頃の男性では前立腺肥大症で頻度の高い症状ですが、前立腺がんや前立腺炎などによることもあります。糖尿病、脳梗塞後遺症、骨盤内の手術などによって排尿をコントロールする神経が障害されても起こります。

(3) 尿を我慢できない

膀胱炎のときは排尿のときの痛みとともに、この症状がでます。膀胱に炎症がなくても、突然尿を我慢できなくなりトイレに駆け込むことが起こります。この場合には過活動膀胱が疑われます。

(4) 尿が漏れる

中年の女性の方に多いのが、腹圧性尿失禁といって、咳やくしゃみ、立ち上がった拍子などに尿が出てしまいます。これは尿道括約筋や骨盤底筋という尿道を支える筋肉が緩むためにおこります。また、尿意を催すと我慢ができずに出してしまうのが切迫性尿失禁です。普段の排尿は普通なのに、自分の知らないうちに尿が出てしまうのが遺尿症です。子供の“おねしょ”もこれに含まれます。他にも自分で尿が出したい

のに出せない、あるいは膀胱に尿がいっぱいになっているのに出したい気持ちがなく、自分の意思に反して尿が少しずつ出してしまう奇異性尿失禁などがあります。

(5)尿道から膿が出る

若い男性であれば、性病による尿道炎が多く、前立腺炎や精巣上体炎を併発することもあります。

(6)陰嚢が腫れる

1)痛みを伴ったもの

精巣上体炎(副睾丸炎)、精巣捻転症、そけいヘルニア(脱腸)のかんどんなどがあります。精巣上体炎は細菌が感染することにより高熱とともに発症するものです。精巣捻転症は精巣を栄養する血管がねじれて血液が流れなくなる病気です。これは学童から思春期に突然発症するのが特徴で、発症から24時間以内に血管のねじれを解除しないと精巣が壊死して摘出することになりますので、緊急対応が必要です。

2)痛みを伴わないもの

手遅れになると致命的な精巣腫瘍(精巣のがん)がありますので注意が必要です。良性の病気としては精索静脈瘤、陰嚢水腫などがあります。